

4 市のうつりかわり

1

市の様子 の うつりかわり

かわってきたわたしたちの市

わたしたちのまちや人々のくらしはどのよう
うにかわってきたのでしょうか。



「100 年ほど前の駅前には車がない
ね。」



「今はかんこう客をむかえるかん板が
あるよ。」



「昔の京街道は、今とくらべて道がせ
まいね。」

京街道

京都に向かう道のこと。江戸
時代に参勤交代で使われていた。

宮津駅前のうつりかわり



100 年ほど前



30 年ほど前



今

京街道のうつりかわり



100 年ほど前



30 年ほど前



今

うめ立てが進む海ぞいの地いき

今から 50 年ほど前



今



「海の形がかわっているのはなぜだろ
う。」



「市の土地の使われ方はどのようにか
わってきたのかな。」

市役所の人からの手紙



宮津のまちは、細川氏によって
宮津城がつけられた後から、城下
町としてはってんし、日本全国の
船が集まる港町としてもにぎわい
ました。

土地がせまかったことから、江戸時代から海
のうめ立て工事がくり返し行われました。1985
(昭和 60) 年にうめ立てられた場所に、ミップル
や道の駅、体育館などもたっています。それ以前
は、国道 178 号のあたりまで海が入りこんでお
り、海岸にそって旅館などがたっていました。



100 年ほど前の宮津小学校



100 年ほど前の島崎公園 うめ立
てられる前の海で水泳のじゅ業をして
いる様子です。



うめ立ての様子

道具とくらしの うつりかわり



日本庭園



書院造の部屋



三上家で使われていたたんす

大こしきは、
何に使ったの
かな。



旧三上家住たく

旧三上家住たく

三上家は、江戸時代には「元結屋」という屋号でよばれていました。宮津城下では有名な商家としてさかえ、酒造業・廻船業・系問屋などをしていました。今の住たくは1783（天明3）年にたてられたものです。

2003（平成15）年に国の重要文化財に指定され、「旧三上家住たく」とよばれ、大切にほぞんされています。



大こしき



お店で売られていた品物



旧永島家住たく

旧永島家住たく

京都府立丹後郷土資料館（ふるさとミュージアム丹後）に旧永島家住たくがあります。この家は1840（天保11）年にたてられ、京丹後市丹後町からうつしたものです。養蚕や農業を中心とした大庄屋でした。



五右衛門ぶろ ふろがまを直火であたためるふろのことです。ふろのそこが熱くなるので、木のふみ板やそこ板をしずめて入ります。



なわばい機



とうみと回転だっこく機 お米などにまじったもみがら（中身ののないもみ）やちりなどを、風を送ってより分ける道具です。



糸車とわたくり機



かまど



台所用品



どのようにしてな
わをなうのだろう。